



歌舞伎・鬘

かつら屋
中莖 光子

かつらの歴史

二十数年前に事務の手伝いに三ヶ月の約束だったのに、今に至っております。恥ずかしいのですが、かつら屋で働くまで歌舞伎を観たことはありませんでした。見るもの聞くものすべてが初めてで、歌舞伎役者全員が男性である事も大変戸惑いました。みなさんに私が経験したこと、歌舞伎、かつらについて、お話したいと思います。

歌舞伎のかつらは銅で決まり！

現在の歌舞伎役者は、約三百人おります。全員松竹株式会社社員の社員です。歌舞伎のかつら屋は、我社と大阪に有ります。役者さんは、関西籍・関東籍に分かれており、我社は約九割を手がけております。かつらは賃貸ですので、台金は増えてしまい現在、役者さんごとに管理し二万円以上保有しております。

古代には、季節の花を編んで、花鬘などの装飾が用いられていたようです。足利時代になって生まれた能狂言は、舞台上で様々な役に変身するため、さまざまな仮髪を生みます。そこで頭につけて結うのが髪や鬘、かぶって垂らすつけ毛の様な頭が出来た様です。ちなみに能では、かつらといえは女役がつける長い黒髪のこと。また、老人がつける尉髪(シヨウカミ)は馬の尻尾でつくり、亡霊や神体、童子に用いる赤頭は、白熊の毛や獣毛(シヤグマ)を赤く染めてつくるなど、材料も工夫していました。慶長8年に生まれた女歌舞伎は、この能狂言の模倣。髪油には「びなんかずら」を用いて扮装に役立てた様です。寛永6年に女歌舞伎が禁止され、前髪を剃り落としていない少年の役者が演じる若衆歌舞伎がおこなわれていましたが、風紀を乱すとの理由から前者は寛永六年(一六二九)に禁止され、後者も売色の目的を兼ねる歌舞伎集団が横行したことから慶安5年(一六五二)に禁止され、現代に連なる野郎歌舞伎となりました。そのため、歌舞伎においては男性役も女性役も、すべて男優が演じることになりました。面をつけず、能以上のリアルさで、役に扮しなけ

ればならない歌舞伎は、このころから、かつらが必要に成ります。江戸期のかつらはシンプルでつくりも上等ではなかったようです。現在の様な頭全体にはめ込む銅板製の台金が発明されたのは、江戸初期の延宝年間に入ってからです。この頃のかつら職人の技を受け継ぐのが我社です。現在の歌舞伎役者は、約三百人おります。全員松竹株式会社社員の社員です。歌舞伎のかつら屋は、我社と大阪に有ります。役者さんは、関西籍・関東籍に分かれており、我社は約九割を手がけております。かつらは賃貸ですので、台金は増えてしまい現在、役者さんごとに管理し二万円以上保有しております。歌舞伎の頭は、かつら屋と床山(結上げ)と別会社で製作します。月の半ばに翌月の①附帳が頭取から届きます。表紙は勘亭流で趣がありますでしょう。役名と俳優の名と各幕の場割が書いてあり、これが注文書です。附帳が届くと職人は半月位で仕上げて、床山さんへ渡さなくては成らないので戦争状態になります。職人は、この配役を見て、打合せも有りますが大体どんな頭の形で、この役に何枚使うかが分かかります。歌舞伎の演目は、二〇〇〇を越えます。松田清風の歌舞伎のかつらと言う本には、かつらの図説は五百を超えますので、役は、どの位あるのでしょうか？これには驚きます。凄い記憶力です。



③木槌によるたたき出し



②かつらの台金



①附帳



⑤人毛の植え付け



④頭の形にととのった銅板

金を頭に着け頭の突起（ふくらみ）を合わせ、銅板（パーツ）を用意して、役者さんのかつら合わせを床山さんとします。役者さんが実際に台

かつらの②台金（土台）は今風に言うところひとりとオーダーメイドです。毎回、演目と配役

一般的なかつらはこうやってつくりま

初めは自分の為にと手作業で、過去の演劇界（演劇の業界紙）から資料を作り現在はコンピュータで管理されています。（よかつたのかな？）

職人の記憶力は素晴らしいのひとこと。かつらの形、いつ頃、だれが演じたのかを良く憶えています。

職人の記憶力は素晴らしいのひとこと。かつらの形、いつ頃、だれが演じたのかを良く憶えています。

電話が鳴ると怯えましたね。お恥ずかしいのですが、現在でも分からない事だらけです。

これを見て請求書を発行する立場の私は、当初立役なのか女形なのか普通の形なのか、おおよぎようなかつらなのか、ちんぷんかんぷんで手こずりました。



⑥完成したかつら



演じる上での要望などを役者、床山さんと確認して台金を仕上げます。（台金が硬いので合わない）

近々髪を長く伸ばす方も減り、品質も悪く成り、あげくに価格も高騰、手に入り難く成って来ており、今後の行方が心配です。

羽二重（絹生地）は人毛を植え付けて作りま

増やしていき自然な生えざわりになります。

台金をつくる際に最も気を遣うのが、額の生えざわりの形です。これを"くり型"といいます。色

気が豪胆さ、あるいは年齢の感じを出すポイントがこのくり型です。



東京演劇かつら株式会社
取締役管理部長

福島県出身。自動車ブレーキメーカーに入社するも、結婚により退社。その後知人の紹介によりかつら屋に入社、3か月の手伝いのつもりが22年、現在に至る。



中莖 光子
なかきき みつこ

さんが結い上げる為に毛の全量を補充して仕上げます。これで、かつら屋の仕事は終わりとなります。床山さんにお渡します。⑥結上げて完成になります。

二〇〇五年十一月に歌舞伎は世界遺産に登録されました。とても光栄な事です。かつらは歌舞伎にとつて無くてはならない道具のひとつですので、これからも、技を守り継承して行く事が我社の使命と感じております。

今年の五月に銅に貢献しているという事で、社団法人日本銅センターから、賞を戴きました。とても光栄な事と思っております。

台金に銅板が古くから使用されている理由には、加工しやすい事、髪の毛及びかんざし等々の重みに対しヶ月の舞台使用に耐える事、再生に適している事など、衛生の面からも銅の特性に合っているからだと思えます。